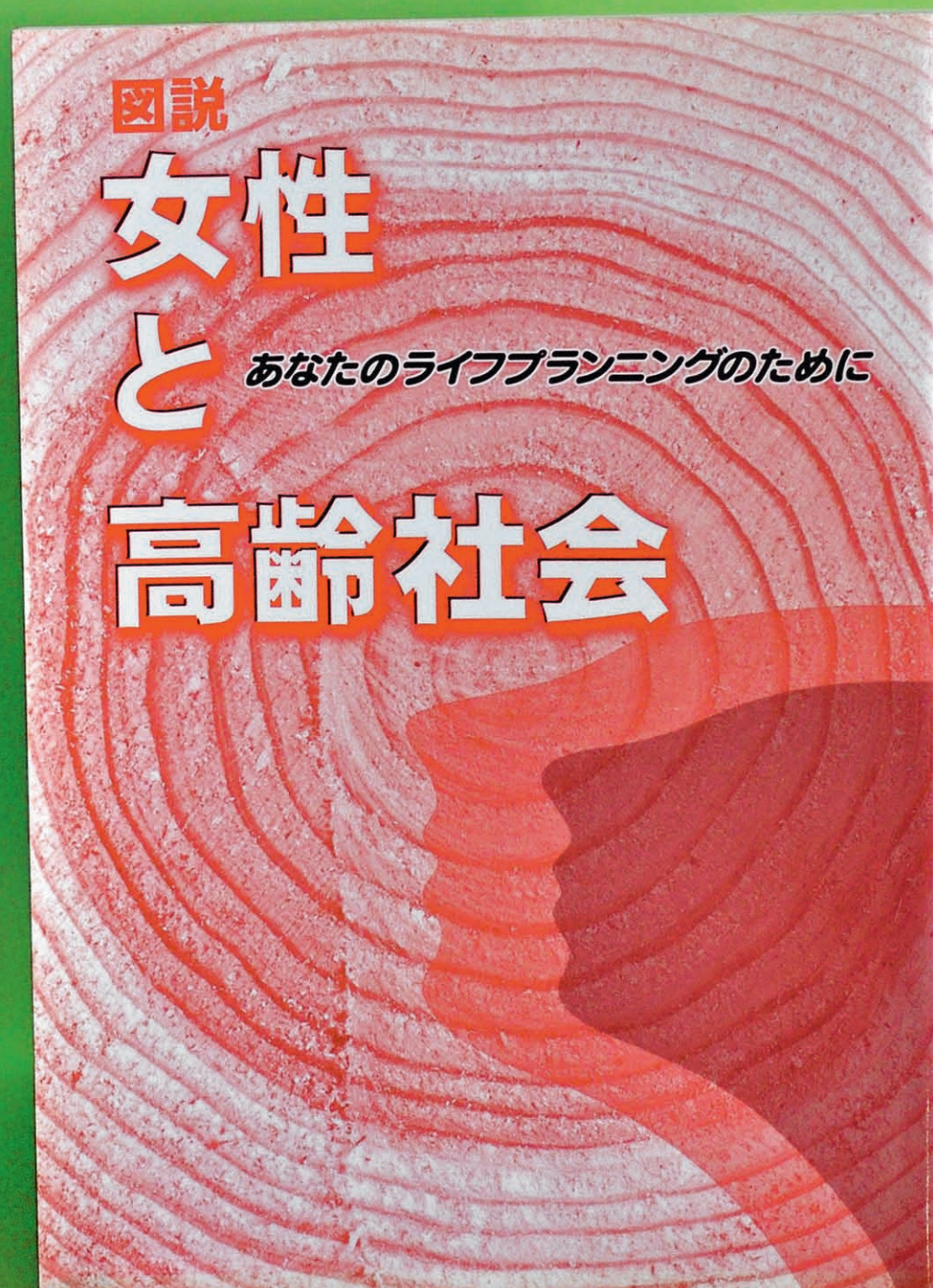
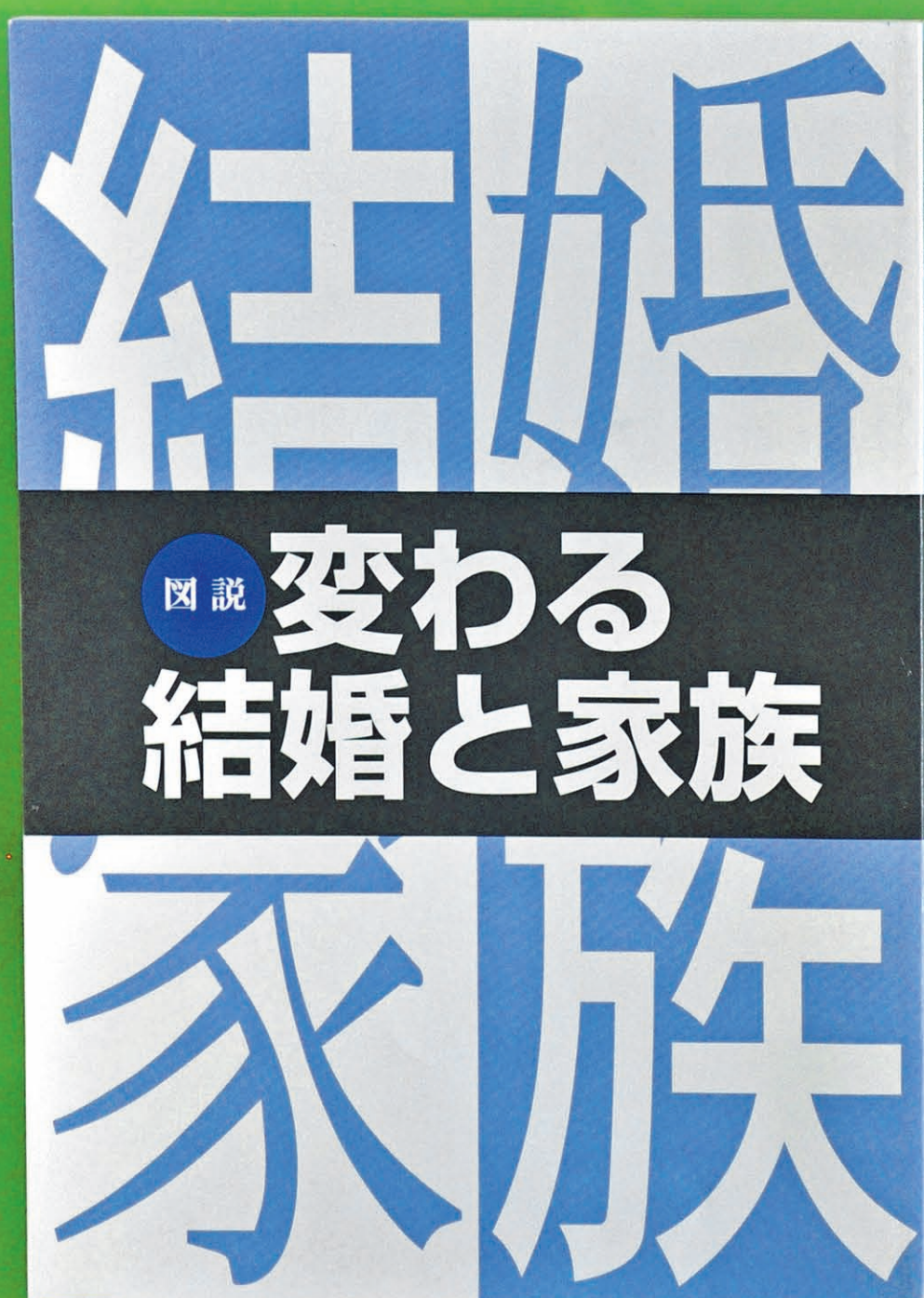
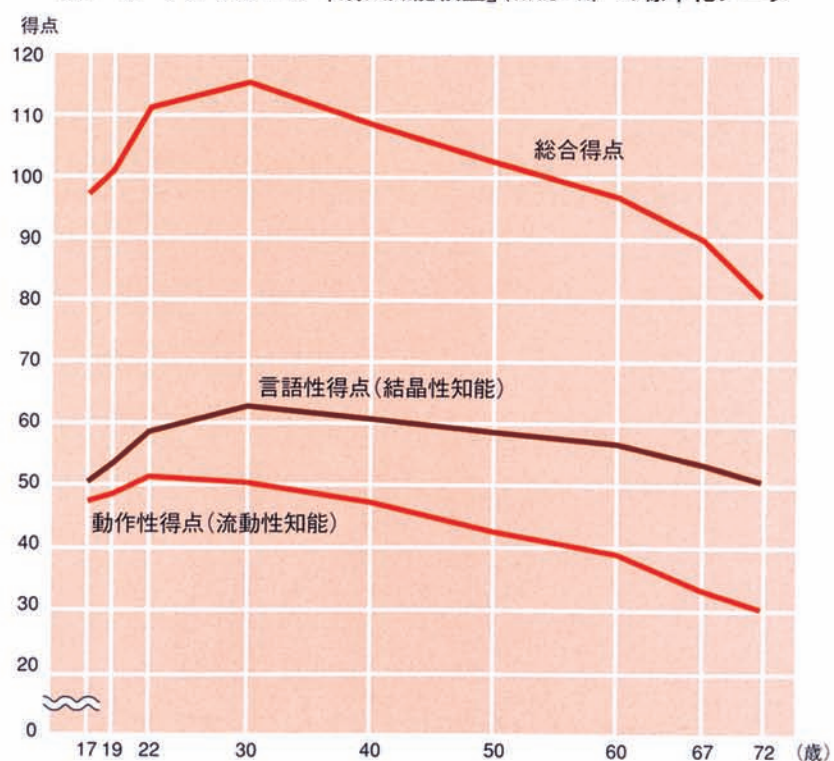




知能の変化
低下する能力・保持される能力

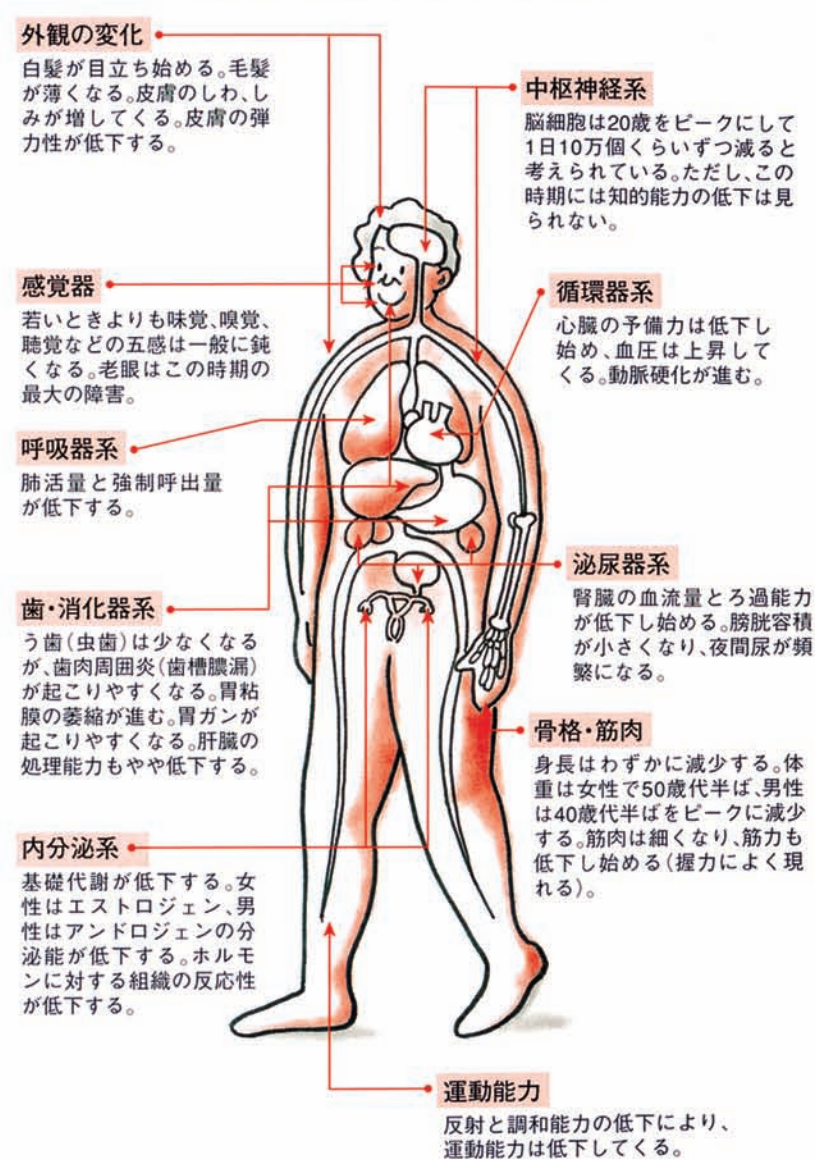
老化により、もの忘れが進んだり、新しいことを覚えるにくいなどの変化を経験します。これらはノーマルな加齢現象であり痴呆症状とは異なります。人間の知能は二つの知能で測定されます。言語能力は言語性得点（結晶性知能）で示されますが、加齢でやや低下するのみです。動作性得点（流動性知能）は、積木作業や図の理解などの直観を検査しますが、大きな低下がみられます。これらを総合した合計総合得点は、三〇歳から低下し始めます。このように低下する能力と保持される能力がありますが、男女差はなく、個人差が大きいです。

図1-3 アメリカでの「成人知能検査」(WAIS-R)*の標準化データ



出典：下村昭子編『老年心理学』培風館1997
*WAIS-R=Wechsler Adult Intelligence Scale-Revised
アメリカの研究者ウェクスラーが1939年に考案した成人対象の知能検査

図1-2 中年期からおこる老化のサイン



出典：柴田博「身体機能の変化」『老年精神医学』メディカルビュー社1987より一部改変

図説シリーズ〈婦人教育〉 1994（平成6）年、2002（平成14）年

女性が自分らしいライフデザインを描けるよう、結婚や家族の変化、高齢期の課題などを具体的なデータで示した。

下：同シリーズ「図説 女性と高齢社会－あなたのライフプランニングのために」より
2002（平成14）年